

3月7日

殉教者パペチュアと仲間たち

Perpetua

(?~203.3.7)

~若くして殉教した二人の母親達~



人名辞典ではペルベトアと書かれているこの人物は女性であり、カルタゴの初期のキリスト教殉教者である。彼女は貴族の婦人としてキリスト教の信仰を持っていたが、セウエルス帝の迫害において逮捕される。その時のパペチュアは22才であり、子どもを産んだばかりだった。彼女と一緒に逮捕されたのは、その乳飲み子と、4人の洗礼志願者(3人の男性と女奴隷フェリキタス)だった。

その後、彼女たちにキリスト教を伝えていた伝道師サテュロスが自首し、逮捕されて、牢獄の中で4人の洗礼志願者たちは洗礼を受ける。

逮捕されたとき、すでに処刑は決まっていたのだが、フェリキタスは妊娠しており、当時妊娠中の女性を処刑することは違法であったので彼女だけ別の場所にいた。しかし処刑を3日後に控えたときに、予定よりもかなり早く娘を出産した彼女は同じ牢獄に移されることとなる。

彼女たちの殉教は「ペルベトアの殉教記録」に残されている。その記録は彼女の手によるものとされ、二人の若い母親が受けた迫害の様子が黙示文学の手法で記述されている。

そこにはパペチュアが父の説得を二度拒んでそのまま殉教に向かった様子が記されている。

父はその後、それでも彼女の元において、看守に殴られるのだが、彼女は「まるで自分が殴られたかのような」と記録している。

また光も入らず、暗く、蒸し暑い牢獄の部屋を、生まれたばかりの子どもと一緒にいる喜びから「宮殿」と呼んだり、4つの夢(幻)の様子を克明に書いていたりしている。

さて、彼女たちは闘技場に引き出されたが、奇跡的に男を打ち倒す。だがどう猛な雌牛に襲われ、何度も突き刺されていった彼女たちは、平和の挨拶を交わしながら歓喜のうちにその生涯を閉じたという。

この殉教記録はアウグスティヌスなども引用し、古代や中世にも影響を与えた。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者パペチュアと仲間たちに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。

アーメン